

さけ・ます資源管理連絡会議の概要

いしくろ たけひこ
石黒 武彦（企画課連絡調整係長）

当センターでは、成果の発表と業務に対するニーズ把握等を目的に、平成15年8月7日札幌において、さけ・ます資源管理連絡会議（以下「連絡会議」）を開催しました。連絡会議には、さけ・ますふ化放流事業に関係する国や道県の行政機関、試験研究機関や民間増殖団体等から114名にご参加いただきました。

主催者を代表して大西理事長が挨拶し、来賓を代表して水産庁山下栽培養殖課長から挨拶を受けました。その後、昨年のアンケート調査結果を踏まえて来遊資源、ふ化放流、調査研究・技術開発の3つのテーマで話題提供と意見交換を行い、最後に連絡会議に関するアンケート調査を行いました。

来遊資源の動向

水産庁漁場資源課神頭資源技術調査官から我が国のさけ・ます資源を取り巻く国際情勢について、北海道区水産研究所福若主任研究官から日本系サケが夏季に分布するベーリング海におけるさけ・ます資源及び海洋環境について、情報が提供されました。続いて、北海道立水産孵化場永田計画管理室長、岩手県水産技術センター小川主任専門研究員、安達係長から、それぞれ、北海道、岩手県、全国のサケ来遊資源評価の情報が提供されました。また、長谷川室長が放流時の沿岸海表面水温データ等を加えた重回帰分析推定法等、資源評価精度を向上させるための様々な取組み状況について報告しました。

ふ化放流の実施状況

平林係員が14年級のサケふ化放流について、平澤係員が12年級のサクラマスふ化放流について、それぞれ情報を提供しました。また、関室長が「根室海域総合調査」の結果概要を報告しました（詳細は本号参照）。

調査研究・技術開発に関する情報

北海道立水産孵化場宮腰研究員から「サクラマス放流事業の経済効果について」、山形県内水面水産試験場大井資源調査部長から「森と川の生態系に関する基礎調査について」の情報が提供されました。続いて大熊室長がサクラマスの資源、ふ



平成15年度さけ・ます資源管理連絡会議での発表

化放流及び調査研究の状況と今後の課題について報告しました。また、野村室長が15年春に当センター虹別事業所で発生したサケ稚魚のさいのう水腫症について、病理組織学や疫学的な調査結果等を報告し、岩手県内水面水産技術センター太田主任専門研究員から「いわゆる水腫症の知見について」と題して、イワナ等で使用されている塩水浴による予防法について情報が提供されました。

センター業務に対する意見交換

各県行政機関、漁業協同組合、民間増殖団体等の出席者からさまざまな意見、要望が出され、担当課長が対応を説明しました。

アンケート調査

関係者の意見、要望を今後の運営に反映させるため、連絡会議に関するアンケート調査を実施したところ、5段階評価満足度で4.30と高い評価が得られ、また、多くの方々から年々改善が認められるとの回答をいただきました。しかし、「研究者向けの内容がほとんど」、「実践向きではない」、「ポイントを押さえた説明や発表で使用した図表の配布を望む」等の意見、要望も出されました。

今後は、行政機関や民間増殖団体向けの発表も加え、さまざまな機関や団体が一同に会して、さけ・ます類の増殖と資源管理に関する情報を交換できる場として充実を図る等、内容の改善に努めてまいりますので、引き続き、多くの方々のご参加とご協力をお願いいたします。